

【研究課題】

東京都特別区における性的マイノリティの自殺に関する疫学研究

研究期間：2019年4月1日～2022年3月31日

東京都監察医務院の検案記録等を解析したところ、平成 21 年(2009 年)から平成 30 年(2018 年)までの 10 年間の全自殺 17,638 例のうち、84 例(0.5%)が性的マイノリティ(LGBT)に該当すると判断された。その内訳はゲイ 43 例(51.2%)、トランスジェンダー 36 例(42.9%)、レズビアン 3 例(3.6%)、バイセクシュアル 2 例(2.4%)であった。非 LGBT 群と比較し、トランスジェンダー群では一酸化炭素やヘリウムなどガス中毒による死亡が多く($p < 0.001$)、公的扶助による生活($p < 0.001$)や独居($p < 0.001$)の割合が高かった。また、ゲイ群では、非 LGBT 男性群と比較し、向精神薬中毒による死亡が多く($p = 0.04$)、身体疾患の既往歴を有する割合が高かった($p = 0.005$)。ただし、性指向や性自認の同定は必ずしも容易でなく、本研究でも性的マイノリティ(LGBT)の自殺を過小評価している可能性がある。